

# 1 サイレージ発酵品質とスラリー散布

嗜好性の高いサイレージは、農場に巨大な利益をもたらします。しかし、根室管内の牧草サイレージは、収穫時の天候不順を始めとしたいくつかの理由により、嗜好性に課題があります。中でも、早春のスラリー利用方法が原因でサイレージの嗜好性を落としている農場が少なくありません。

## (1) スラリー成分値の実態

別海町のスラリーを調べたところ、1 t中に含まれる肥料成分に大きなバラツキが見られ、窒素成分に換算すると最大と最小で10倍もの差がありました。この最大の要因は、スラリー性状の違いによります(表1)。

特に、ほとんど加水されていないスラリーは、肥料成分の過剰施用になりやすいため、サイレージの嗜好性や草地の植生に悪影響を与えます。

スラリーを普及センター等で分析し、スラリー性状の違いと肥料成分の関係を把握することをおすすめします。

表1 スラリー現物1 t中の肥料成分換算値 (Kg)

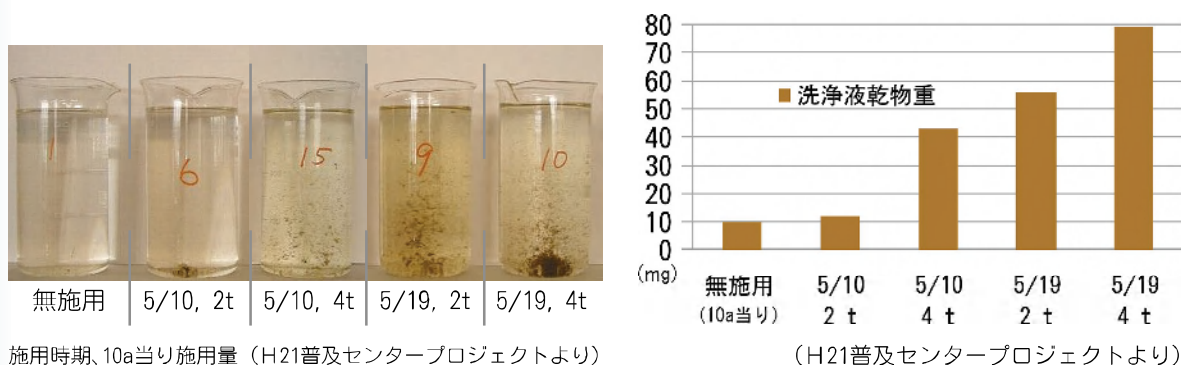
	N (窒素)	P (リン酸)	K (カリ)	乾物率 (%)
最大	2.20	1.42	4.65	12.85
最小	0.26	0.19	0.80	1.03
平均	1.03	0.62	2.70	6.70

n = 1 2 0 (普及センター調べ、H19~21)

## (2) サイレージ原料草へのスラリー混入の実態

### (ア) サイレージへのスラリー混入度合

早春に散布したスラリーが、サイレージ原料草中に混入して嗜好性を落とすケースが増えてきました。そこで混入程度を調査したところ、散布量が多く、散布時期が遅い程、混入量が多くなる傾向がわかりました(図1)。



施用時期、10a当り施用量 (H21普及センタープロジェクトより)

(H21普及センタープロジェクトより)

図1 サイレージ原料草の洗浄液をスラリー散布方法の違い(時期・施用量)で比較

(結論) 散布量が多く、散布時期が遅くなるほど、サイレージ原料草へのスラリー混入量が増える

(イ) スラリー散布量とサイレージ発酵品質の関係

管内A地区で早春のスラリー散布量の違いを追跡調査しました。その結果、スラリーを3 t / 10a散布した区はサイレージ発酵品質が低下しました (図2)。

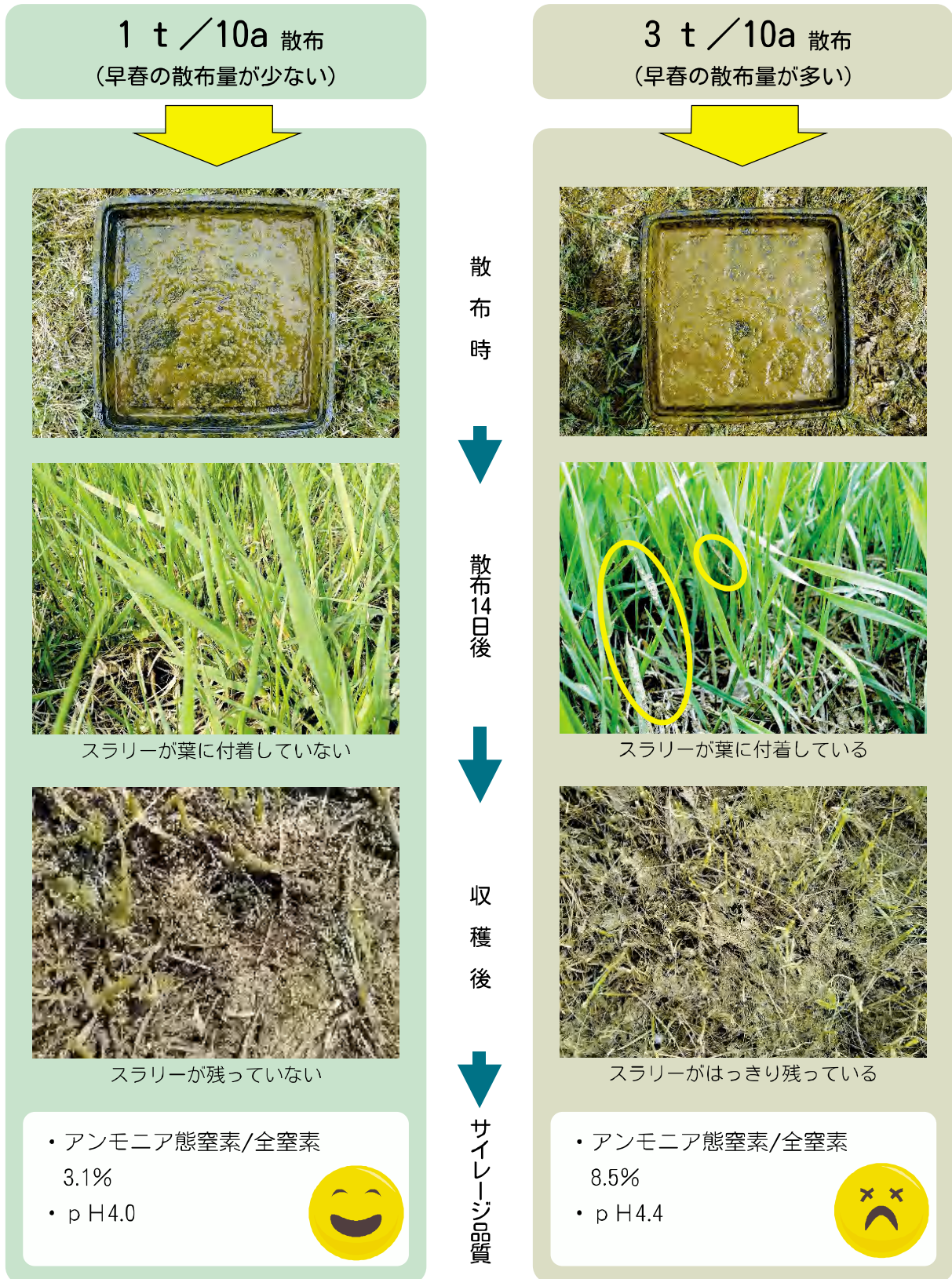


図2 スラリーの散布時期によるサイレージ発酵品質の違い

(ウ) スラリー散布時期と牧草のスラリー付着について

管内A地区で、スラリー散布時期の違いによる牧草のスラリー付着度合いを追跡しました。その結果、散布時期が遅い区は、牧草にスラリーが付着していることがわかりました(図3)。

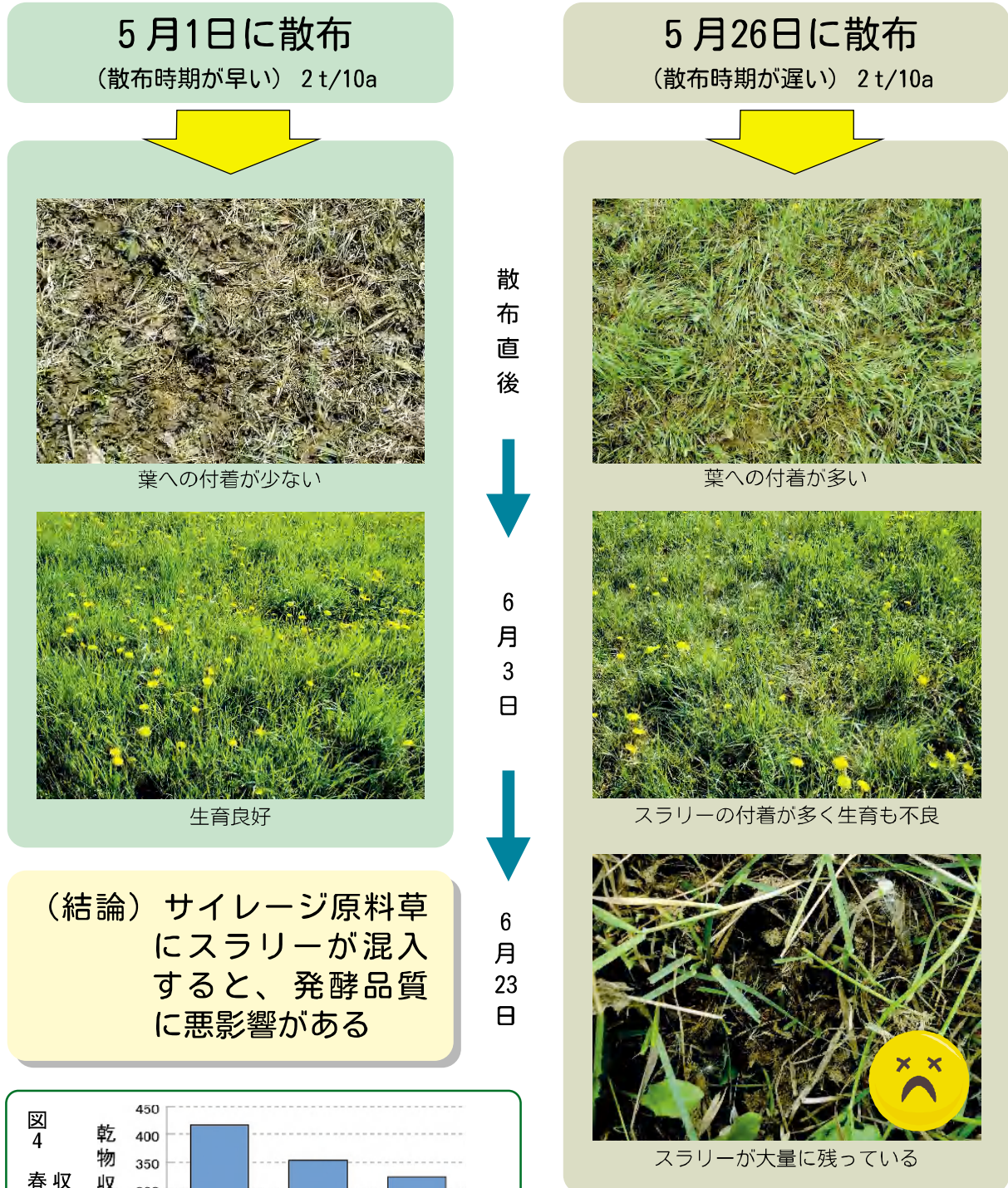


図3 スラリー散布時期による牧草への付着の違い

ちなみに、収量調査を行った結果、散布日数が遅れるほど、収量も低下しました(図4)。

